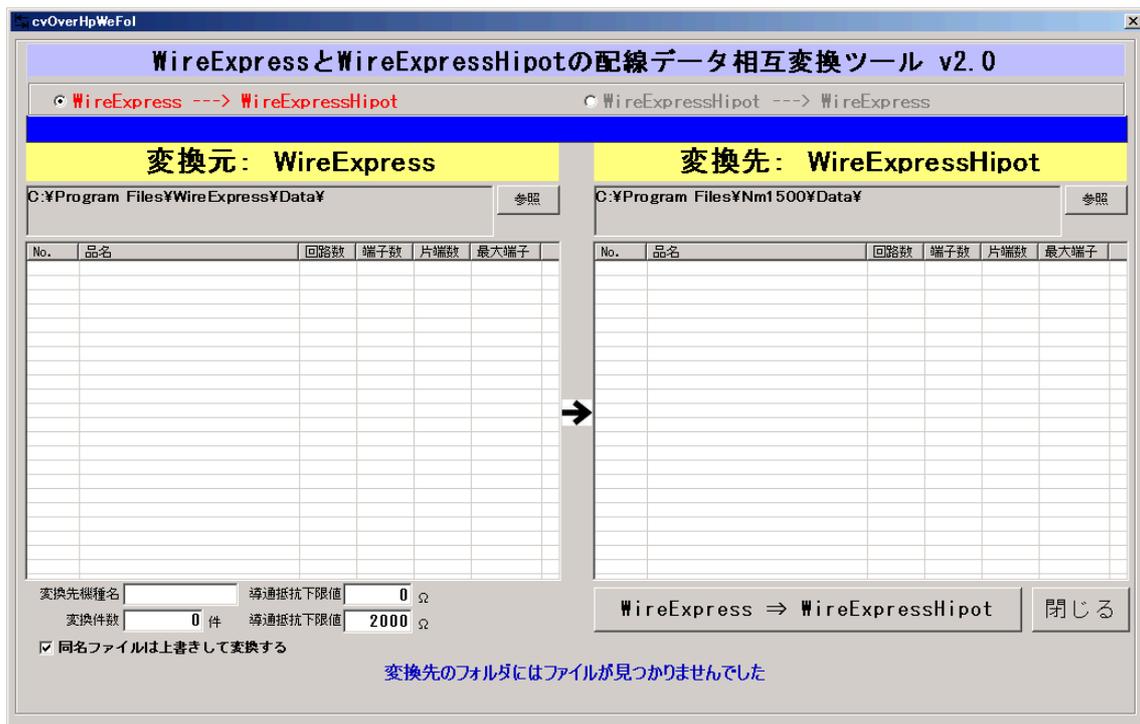


WireExpress と WireExpressHipot の配線データ相互変換ツール v2.0

WireExpress→WireExpressHipot 配線データとコメントの変換

WireExpressHipot→WireExpress 配線データとコメントの変換



株式会社ナックコーポレーション

2018-10-04 v2.0

目次

1. WireExpress と WireExpressHipot の配線データ相互変換ツールとは.....	3
2. インストール手順	4
3. 相互変換ツールの起動	6
4. 配線データの変換	6
変換する配線データの指定	6
変換元のデータを指定	8
変換先のデータを指定	9
その他の項目を記入	10
配線データを変換します	10

1. WireExpress と WireExpressHipot の配線データ相互変換ツールとは

WireExpress と WireExpressHipot の配線データ相互変換ツール（以下相互変換ツール）とは WireExpress で作成した配線データ（含むコメント）を WireExpressHipot 用の配線データに変換したり、WireExpressHipot で作成した配線データ（含むコメント）を WireExpress 用の配線データに変換します。

それぞれ配線データとコメントは変換しますが、検査スペックは変換しないため、検査するときの検査順序、配線、抵抗、瞬断などの検査有無はデフォルトの状態に変換されます。読み替えデータも変換しないため、デフォルトの読み替えとなります。

相互変換ツールを使用すると、WireExpress で検査していた配線データを WireExpressHipot で検査したり、WireExpressHipot で検査した配線データを WireExpress で検査することが可能になります。

変換元データのフォルダ階層ごとに変換先に変換するため、一発で全データを変換できます。

【注意】 変換した配線データとコメントは上書きされます。

記述内容に片端の行がある配線データは変換の対象外です。

2. インストール手順

相互変換ツールのインストールは CD-ROM や USB メモリで入手した **setup.EXE** をダブルクリックし、画面の指示に従って進めます。



「次へ」ボタンを押す。



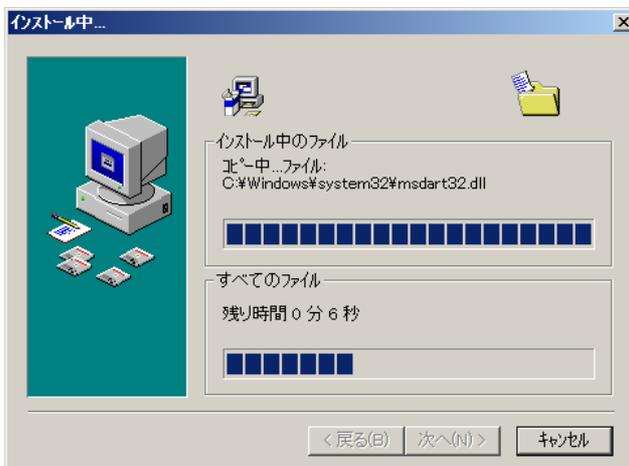
「次へ」ボタンを押す。



「次へ」ボタンを押す。



「次へ」 ボタンを押す。



「次へ」 ボタンを押す。

途中で警告表示されたときは「無視」 ボタンを押して進めます。



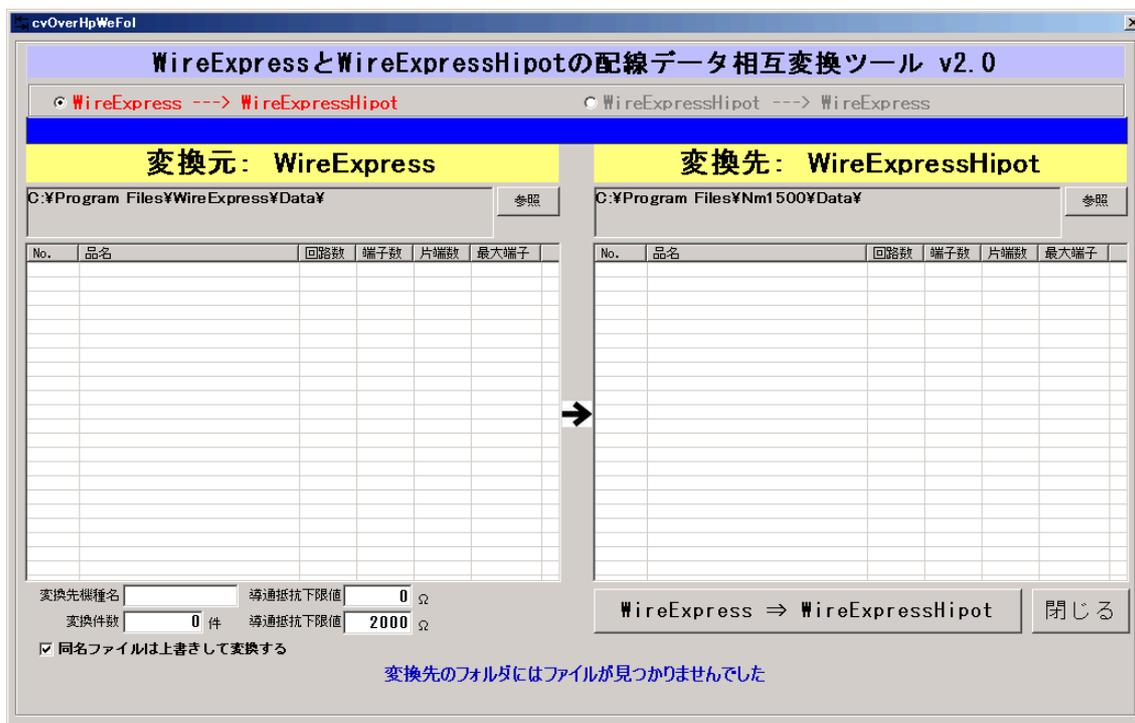
「完了」 ボタンを押す。

完了ボタンを押すとセットアップ完了です。

デスクトップには相互変換ツールのアイコン  が出来ます。

3. 相互変換ツールの起動

デスクトップに出来た相互変換ツールのアイコン  をダブルクリックすると、相互変換ツールが起動します。



4. 配線データの変換

配線データを変換する手順は、「変換する配線データの指定」→「変換元のデータを指定」→「変換先のデータを指定」→「その他の項目を記入」→「**変換ボタン**」となります。

変換する配線データの指定

WireExpress の配線データを WireExpressHipot 用の配線データに変換するときは、「WireExpress → WireExpressHipot」をクリックします。



WireExpressHipot の配線データを WireExpress 用の配線データに変換するときは、「WireExpressHipot → WireExpress」をクリックします。



この場合、変換する WireExpress の端子表現を「AB 番号」にするか WireExpressHipot と同じように「連番数字」にするかを選択します。

WireExpress に接続する検査器が **NMC128**、**NMC128+**、**NM-DX シリーズ**、**NMA シリーズ**であれば「**AB 番号**」が標準です。

検査器が **NMF シリーズ**のときは「**連番数字**」が標準です。

この例では、**WireExpressHipot の配線データを WireExpress 用の配線データに変換**するため、「**WireExpressHipot → WireExpress**」をクリックします。

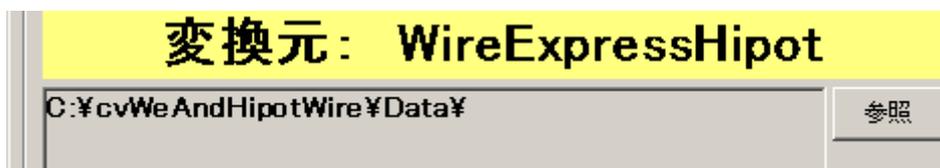
変換先の WireExpress には **NMA128** 検査器を接続して使用することとし、「**端子番号表現は AB 番号**」を指定します。



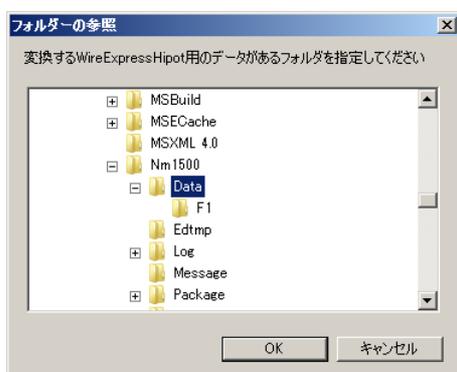
変換元のデータを指定

次に変換元のデータが格納されているフォルダを指定します。

この例では変換元は WireExpressHipot なので、変換元の参照ボタンを押して WireExpressHipot の Data フォルダを指定します。

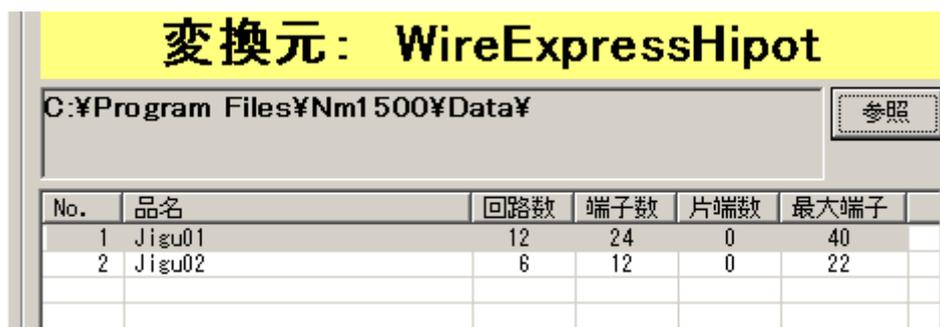


変換元の参照ボタンを押すとフォルダの参照ダイアログが表示されます。



(Data フォルダには F1 フォルダがある例です)

WireExpressHipot の Data フォルダ (C:\¥Program Files (x86)\¥Nm1500¥Data) を選択してから OK ボタンを押します。



参照先のパスが表示され、Data フォルダにある 2 つの配線データが表示されました。

この例はサンプルのため、実際の内容と異なります。

変換先のデータを指定

次に変換先のデータが格納されているフォルダを指定します。

この例では変換先はWireExpress なので、変換先の参照ボタンを押してWireExpress のData フォルダを指定します。



変換先の参照ボタンを押すとフォルダの参照ダイアログが表示されます。



(Data フォルダには何もフォルダが作成されていない例です)

WireExpress の Data フォルダ (C:¥Program Files (x86)¥WireExpress¥Data) を選択してから OK ボタンを押します。



参照先のパスが表示され、Data フォルダにある配線データが表示されます。配線データが未登録のため、一覧には配線データが何も表示されていません。

この例はサンプルのため、実際の内容と異なります。

その他の項目を記入

最後に変換先に接続する検査器の機種名と導通抵抗下限値、導通抵抗上限値を記入します。
導通抵抗下限値と導通抵抗上限値は接続する検査器の設定範囲で記入します。

(変換先機種名は自由に記入できます)

変換先機種名	NMA128	導通抵抗下限値	0 Ω
変換件数	0 件	導通抵抗上限値	2000 Ω
<input checked="" type="checkbox"/> 同名ファイルは上書きして変換する			

変換先機種名には「NMA128」、導通抵抗下限値には「0」、導通抵抗上限値には「2000」と記入した例です。

同名ファイルは上書きして変換するにチェックを付けると、変換したファイルが変換先ですでに存在していても上書きして保存します。

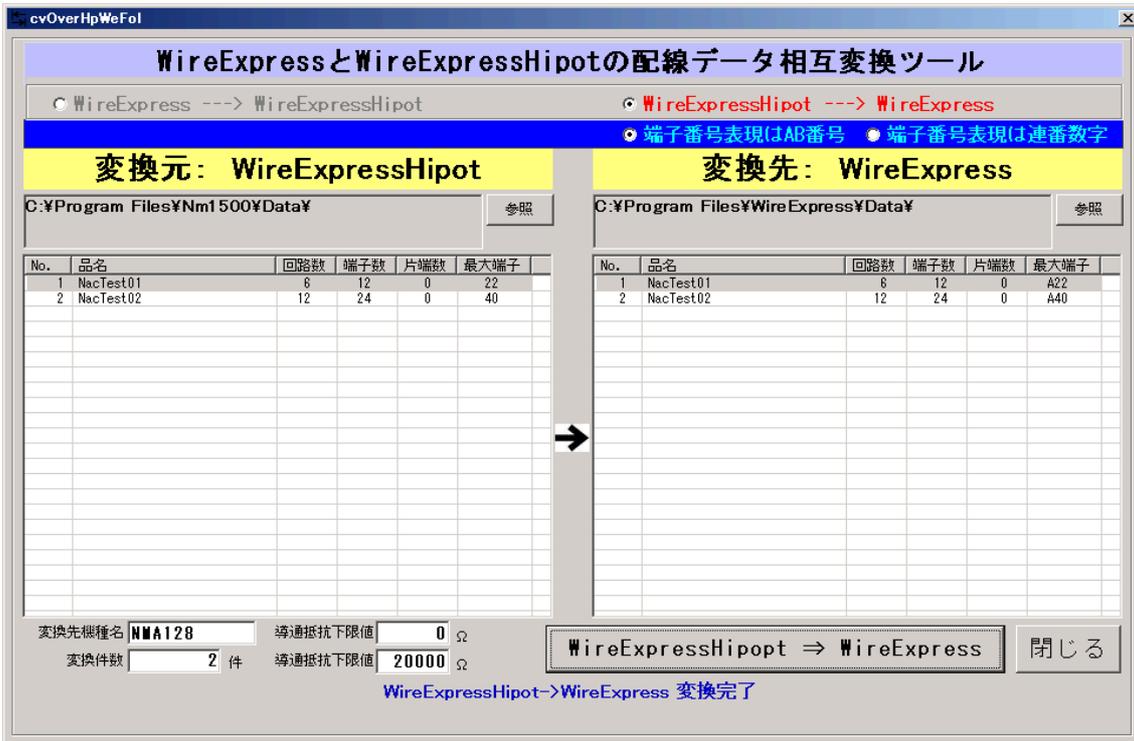
配線データを変換します

準備が整ったので、「WireExpressHipot ⇒ WireExpress」ボタンを押して配線データを変換します。

変換先機種名	NMA128	導通抵抗下限値	0 Ω	WireExpressHipot ⇒ WireExpress	閉じる
変換件数	0 件	導通抵抗上限値	2000 Ω		
<input checked="" type="checkbox"/> 同名ファイルは上書きして変換する					
フォルダ構成を解析中です...					

変換中のガイダンスが表示されます。

しばらく待つと、変換作業に進むにつれ品名一覧表示が切り替わって表示されていきます。



変換が終了したことをガイダンス表示し、変換完了です。

WireExpress を立ち上げて配線データを確認します。



Data フォルダには変換した2件の品名が表示されています。

フォルダ変更ボタンを押して、「F1」フォルダに切り替えてみます。



「F1」フォルダにも2件の品名が変換されています。